

【保育実践論文(ソニー幼児教育支援プログラム) 審査講評】
2024年度 最優秀園
学校法人岡崎学園 荒尾第一幼稚園

2023年度の論文において、子どもが過去に主体的に事象と関わった経験や知識、感覚を活かしていることを「経験の編み込み」と表現されました。今年度は「科学する心」の捉えにさらに「場に埋め込まれた記憶」を要素として加え、子どもたちが心動かされる「環境」と対話しながら、繰り返したり、振り返ったり、もう一度見つめ直したりすることの重要性を説かれています。

「科学する心」を育てる保育として「造形活動」に焦点を当てた事例では、子どもたちの心の動き、モノとの対話、友達との関りの変容、問題解決の姿などが細やかに記録されていました。5歳児への憧れや過去の自分からも学ぶといった、子どもたちの「体験がつながり」の豊かさも描き出され、保育の重要な示唆となっています。愛着を持ってたっぴりと遊ぶこと、別れる(壊す)さびしさを感じることの大切さ、その上で生まれ変わる(リサイクル)ことへの実感と重要性を取り組んだ様子も、子どもたちが生きていく上での礎となるでしょう。園を訪問して行われる現地調査の報告からも、これまでの遊びや製作の「形跡」が空間に存在し、子どもたちが無意識のうちに取り入れたり、意識的に振り返ったりしながら、個人が、そして集団が、新たな願いの実現に向け、没頭したり協力したりする姿を確認できました。「みんなでおもしろがる」という保育者の姿勢が、子どもたちの願いや思いを実現していく力につながる貴園の園文化を高く評価します。

生活廃材などを利用した製作は、多くの園で日常的に取り入れられています。子どもたちは「ものづくり」を通じ、実はしっかりと、モノの仕組みや構造についての意識や感覚を得ています。今後は研究にこのような視点も加えていただき、造形活動を通じた「科学する心」の育ちと、多くの園の参考となるすぐれた実践の発信を継続いただけることを願います。